

統合のご案内

11月18日（日）、学動館4階のC会場で、連帯ユニオン・クラフト支部の第4回定期大会が開催されました。同日、同時に隣りのB会場で関西ユニオンの臨時大会が開催され、連帯ユニオン・クラフト支部と関西ユニオンはそれぞれの会場で、両組合の組織統合を提起しました。

午前中に行われた両大会において組織統合が無事に決議され、昼食をはさんで午後からは統合大会を開催。

統合大会では、それまで別組織であった関西ユニオンが連帯ユニオンに加わるかたちで統合し、新組合の名称が連帯ユニオン・関西ゼネラル支部と定められました。ゼネラル支部の役員選挙が行われ、新執行委員長には旧クラフト支部の執行委員長が就任し、旧クラフト支部の書記長が新副執行委員長に就任し、旧関西ユニオンの書記長が新書記長を務めることとなりました。

統合大会は、無事に終了し、その後は関係各界から多数の来賓を招いて祝賀会が開催されました。

関西ユニオンと関西クラフト支部との統合は、これからも大きくユニオンの発展に寄与していくためのものであり、多くの来賓から前途ある統合を讃えて祝辞が述べられました。

祝賀会の最後で新書記長が今回の組織統合の意義をこのように語っています。「関西ユニオンはコミュニティユニオンとして多くの労使紛争を解決してきたが、その殆どが合意による金銭解決で終結し、職場に残って職場の労働環境を改善させるという本来の目的が残念ながら実現できていない。これでは労働運動とは呼べないものである。法律とはあくまで国が造るものであり、法に頼る闘い方では社会を変えていくことはできない。法律違反を取り締まるだけの労働法規制だけに頼っている現状の闘い方では、それ以上の労働者の望む労働環境を造りだし、生きがいのある社会を実現することは望めない。本気で社会を変えたいと望むならば、己自身が主体となって労働運動を大衆運動に昇華させ、実力により社会を変えて行く意志が必要である。そのように大衆運動による実力行使で社会を変革させようとするとき、既成の枠組みと衝突するのは必然ともいえる。その強さを私達は持たなくてはならない。連帯ユニオンは、これまでの運動において敢然として立ち向かい、多くの仲間から共感の支援を得て闘い続けているユニオンである。我々もその一員となって共に闘っていきたい」